令和6年 8月 2日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

滋賀県		
学校名	管理機関名	設置者の別
米原市立息長小学校	米原市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
米原市立息長小学校	https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/page_20201219114712

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米原市立息長小学校	https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/page_20201219114712	https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/page_20201219114712

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の子どもたちは、明るく素直で決められたことは誠実にやり遂げようとする力をもっている。反面、従順で受け身の姿勢が多くみられる。やりたい、知りたい、話したいことなどの思いは、個々にもっているが、集団の中で自分の思いを伝えることは難しく、周りの雰囲気にならそうとして自分の行動を抑制してしまう傾向がみられる。とりわけ表現することの弱さ、表出することの自信のなさがみられる。そこで、英語科の学習を通して、子どもたちが自信をもって、積極的に人とかかわる力を育成することが大切であると考え、取組を進めてきた。

保護者対象の学校評価アンケートでは、「小学校で英語を楽しみにしていますか。」の設問に対して全校の70%の方が楽しみにしていることから、他の教科と比較して英語の時間を家庭でも楽しみにしている様子がうかがえる。反面、児童対象の学校評価アンケートでは、「英語の学習が好きですか」の設問では、上の学年になるほど低くなっている。「英語の学習は大事だと思いますか」の設問で6年生でも90%近くが大事だと考えているため、やはり英語に対しすすんで学習していこうとする意欲に課題があると言える。そのため、来年度からはより児童一人一人の学びの意欲が高まり、安心して英語でコミュニケーションができる授業づくり、そして児童が「〇〇を勉強した。」と家庭で話せる学びを推進する必要がある。

低学年では意欲は高い水準であることが児童対象の学校評価アンケート「英語の学習が楽しいですか」の問いで91%であることもうかがえる。特に中学年では、DVDやALTとの会話、英語を使ったゲーム等、活動的に学ぶ機会がより多く、伸び伸びと表現できる場を保障しやすい面がある。こうした学習を楽しむ中で、より英語が身近なものとなり、日常会話の中で使用できることが期待できる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

全国学力学習状況調査の児童質問紙調査において「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」の問いに対して、肯定的な意見は60%であり、全国平均と比較して10ポイント以上低い結果となった。また、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の問いに対して肯定的な意見は50%であり、全国平均と比較して28ポイント低い結果となった。子どもたちにとって、海外に視野を広げ、国際文化を学んでいこうとする意識、進んで外国の友だちと英語でコミュニケーションをする意識が低い。

また「自分には、よいところがあると思いますか」の問いでは全国平均より高い

数値であった。これらのことから、より前向きに外国の友だちと英語で交流することの良さを体感し、自分の地域や国の良さを英語でより積極的に発信する経験する学習を推進していきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

まず1つめに、「日常生活の中で英語に触れる機会を増やす」ことである。本校では英語専科が3～6年の指導を担当している。そのため、英語の授業以外で英語を使う場が学級担任任せになる。そこで、学級担任が積極的にクラスルームイングリッシュを使い、子どもたちがより多く英語に触れる機会を作っていくようにする。またそのためにも、英語専科以外の研修を進めていく。

2つめに「反復練習を積極的に取り入れる」ことである。本校では週1回、15分のモジュールで英語の学習を行っている。この内容を授業の内容とより関連づけ、反復練習が行えるようにしていく。このためにも、英語専科と担任との打合せを綿密に行い、授業参観をより積極的に行うことが必要であろう。

こうして、子どもたちに自然と身につく英語を増やし、少しでも抵抗感無く英語に触れることができる場づくりを進めることで、下の学年での楽しさを上の学年へもつなぎ、意欲的に英語を学ぼうとする子どもを育てていきたい。